文系4学部
副　専　攻
プログラム

履修ガイド

Contents

1 文系4学部副専攻プログラムとは?
—「横断型」と「専門領域型」からなる魅力的プログラム

(1)横断型プログラム …… 1
(2)専門領域型プログラム …… 3
同窓会からのメッセージ　文系4学部副専攻プログラムに期待します! …… 3

2 プログラムの履修方法

(1)登録方法 …… 4
①仮登録 …… 4
②本登録 …… 4
(2)修了要件 …… 4
(3)修了証書 …… 4

3 文系4学部副専攻プログラムの内容

(1)横断型プログラム …… 5
現代のための歴史 …… 5
クロス・アジアの人間と社会 …… 5
超情報化社会の文系知 …… 6
グローバル時代のビジネス …… 6
(2)専門領域型プログラム …… 7
文学部・専門領域型副専攻プログラム …… 7
教育学部・専門領域型副専攻プログラム …… 9
法学部・専門領域型副専攻プログラム …… 10
経済学部・専門領域型副専攻プログラム …… 12

4 履修のモデル・ケース

文学部生にとっての履修モデル・ケース …… 13
教育学部生にとっての履修モデル・ケース …… 14
法学部生にとっての履修モデル・ケース …… 15
経済学部生にとっての履修モデル・ケース …… 16

5 履修内規と履修に関する申し合わせ …… 18

1 文系4学部 副専攻プログラムとは?

―「横断型」と「専門領域型」からなる魅力的プログラム

戦後の日本や世界の政治や経済を支えてきた枠組みが次々と崩れ不安定化し、文化的・宗教的混乱と知的動揺が世界全体に広がりつつあります。こうした不透明な現代社会において、私たちは一体全体、何を学び、それを個人や社会の未来にどう活かしていけばよいのでしょうか。

こうした根源的な問いかけに対して、人文学・社会科学が果たすべき役割はますます大きくなっています。とはいえ現代社会の新しい潮流は、これまでと同じ学問的な枠組みや学び方では正しく把握できないかもしれません。そこで九州大学の文系4学部(文学部・教育学部・法学部・経済学部)は、それぞれの学問分野に蓄積された知的資産を相互に開放し、体系的に提供する「文系4学部副専攻プログラム」をスタートさせます。

副専攻プログラムにより、九州大学の文系学部の学生は、自学部で学ぶ深い専門性に加え、学部の枠を超えた人文・社会科学分野の知的広がりを獲得することができます。

九州大学の文系学部で共に学び、大きくしなやかな翼で世界に羽ばたきましょう!

プログラムは、各学部の専門教育が始まる2年次からスタートします。「横断型」と「専門領域型」に分かれ、それぞれの型で複数の魅力的なプログラムが提供されます。

1 横断型プログラム

大学入学後に、自学部の専門教育を学ぶ中で、さらに「歴史」「アジア」「情報」「ビジネス」といった現代社会を解く重要なテーマに関心を持った知的好奇心旺盛な学生に対して、自学部に籍を置いたまま2年次より上述のテーマに関して文系4学部が提供する科目を広く体系的に学ぶ機会を提供します。

副専攻プログラム名	主要科目例*
現代のための歴史	現代史入門,史学概論,イスラム史学,教育史,政治史,経済史等
クロス・アジアの人間と社会	Democracy and EducationⅠ・Ⅱ,国際教育論Ⅰ,アジア宗教思想,中国法,グローバル化とアジア経済等
超情報化社会の文系知	情報法,法情報学,情報サービス論,教育とコミュニケーションデザイン,情報経済等
グローバル時代のビジネス	現代日本経済論,国際ビジネス,国際取引法,比較教育学,比較宗教学等

* 科目は各学部カリキュラムの変更などにより入れ替わることがあります。履修の際には、副専攻プログラムのホームページで、当該年度の開講科目を確認してください。

四つの横断型プログラムが目指すもの

現代のための歴史

現代の日本社会・国際社会を理解し、そのなかで活躍するために、それぞれの地域・社会や産業分野・学問分野を過去から現在にいたる蓄積によって形成されるものとして歴史的に理解する力を、そうした視点を獲得するための方法論も含めて身につけます。

クロス・アジアの人間と社会

アジアという時空間や概念を軸とする「クロス・アジアの視座」から人間や社会を理解するために、隣国を含むアジア諸国との関係、さらにそのグローバルな文脈における位置や今後の在り方、そのなかでの人々の生き方への深い洞察力を身につけます。

超情報化社会の文系知

情報通信ネットワーク技術が日進月歩の勢いで高度化する現代社会において、それらの技術革新が様々な産業分野に及ぼす影響や、そこにおける規制のあり方を含めて、近い将来における社会のあるべき姿を今から考え、適切な社会制度を設計できるような能力を身につけます。

グローバル時代のビジネス

グローバル化が進む現代社会では、各国・地域のローカルで多様な文化や政治・経済・社会の内在的理解は欠かせません。地球上のどの地に身を置くことになっても、地域理解とビジネスに関する実践知をもって互恵的関係を構築できる「真のグローバル・ビジネス人材」としての力を身つけます。

各コースが定める科目により16単位を取得し、プログラムを修了すると…

就職
自学部が提供する専門分野を深く学んだうえで、「歴史」「アジア」「情報」「ビジネス」などの現代的テーマに関する(方法論も含めた)知的広がりを携えて社会に出ることができます。

大学院に進学
「歴史」「アジア」「情報」「ビジネス」などの現代的テーマに関する広範な知的広がりをバックに、専門の研究を進めることができます。

将来のキャリアパスに沿って多様なプログラムの中から選択が可能

(例) 横断型副専攻のケース(他にも各学部が提供する専門領域型があります)

文学部主専攻	+	横断型副専攻プログラム〈クロス・アジアの人間と社会〉	国連職員、マスコミ、ゼネコン・商社・メーカー、観光 等々	実践臨床心理学
教育学部主専攻	+	横断型副専攻プログラム〈グローバル時代のビジネス〉	アジア展開する製造業や商社 等々	ビジネス・スクール
法学部主専攻	+	横断型副専攻プログラム〈現代のための歴史〉	公務員、国際機関、出版・ジャーナリズム 等々	ロー・スクール
経済学部主専攻	+	横断型副専攻プログラム〈超情報化社会の文系知〉	公務員、放送・出版、IT企業、金融機関 等々	

⋮

より高度なスペシャリストを目指して
専門職・大学院

大学院修士課程・博士課程に進学し研究者になる道も開かれています!

2 専門領域型プログラム

大学入学後、自学部の専門領域を学ぶに連れて、さらに他の文系学部の専門領域にその知的好奇心が広がることはよくあるケースです。本プログラムは文系他学部の専門領域をより深く学びたいと考える学生に対して、自学部に籍を置いたまま2年次より他学部の専門領域を体系的に学ぶ機会を提供します。

提供学部	副専攻プログラム名
文学部	●哲学プログラム　●歴史学プログラム　●文学プログラム　●人間科学プログラム
教育学部	●教育学・心理学から見た『個と多様性』　●教育学・心理学から見た『文化とシステム』
法学部	●法の文化と歴史　●行政と法　●企業と法　●犯罪と法　●国際ビジネスと法　●政治
経済学部	●経済学・経営学のツールで解く現代社会の諸課題

各コースが定める科目により16単位を取得し、プログラムを修了すると…

就職　人文学・社会科学分野の二つの学問体系を携えて社会に出ることができます。

大学院に進学　自らの問題関心により近い大学院を選択でき、かつ大学院進学後も二つの学問的方法論を自在に駆使することができます。

同窓会からのメッセージ

文系4学部副専攻プログラムに期待します！

杉 哲男 氏
九州大学東京同窓会
理事・事務局長

2015年6月、国立大学「文系学部廃止」の文脈の報道がメディアを駆け抜けた。一斉に批判の声が挙がったのは当然であるが、同時に「文系学部の在り方」を再考するチャンスでもあった。

九大では、関係者の努力により、人文学・社会科学が果たすべき役割の大切さを再確認し、新しい「副専攻プログラム」を構築するに至った。

そもそも、九大の「文系4学部」は『法文学部』としてひとつの学部であった。その歴史的事実をヒントに横断的・専門的、かつ時宜を得た「四つのプログラム」の発足を試みる。それは「歴史」「アジア」「情報」「ビジネス」といった現代的テーマを捉えたものであり、実学への期待が膨らむ。

私は多くの同窓生と出会った中で、大切に思うことは、「豊かな人間性と幅広い知性」である。九大文系同窓生の大切なアイデンティティづくりに「副専攻プログラム」が大きく寄与してくれることを期待したい。

2 プログラムの履修方法

文系4学部副専攻プログラムは、九州大学の文系4学部（文学部・教育学部・法学部・経済学部）に所属する学生が、以下の手続きを行うことで履修・修了できます。

＊なお一部のプログラムには、基幹教育科目が含まれています。2年次以降に履修を希望するプログラムの科目リスト（本履修ガイド末尾に掲載されている別表を参照）を確認のうえ、1年次から計画的に基幹教育科目を履修することをお勧めします。

1 登録方法

文系4学部副専攻プログラムの履修登録は以下の二つのステップで行われます。

①仮登録

2年次進級時ガイダンスの際に、文系4学部の在籍者は全員が仮登録を行います。本履修ガイドを参考に、2年次以降の専門課程で学びたい副専攻プログラムについて最低一つ（最大二つ）仮登録を行ってください。二つ仮登録する場合、横断型プログラムと専門領域型プログラムからそれぞれ一つずつでも、あるいはどちらかの型から二つでも構いません。なお専門領域型プログラムについては、自分が所属する学部のプログラムには登録できません（ただし、文学部生は自分が所属するコース以外であれば自学部のプログラムも登録できます）。なお、仮登録だけでは履修・修了はできません。実際に履修を希望する学生は、②に記載する本登録を行ってください。

②本登録

副専攻プログラム履修希望者は、2年次以降の前期（第1クオーター）もしくは後期（第3クオーター）の履修登録期間中に、学生係にて本登録を行ってください。本登録をもって副専攻プログラムの正式な履修が始まることになります。本登録は、同時に二つのプログラムまで可能です（その際の組み合わせは①の仮登録と同じ）。また特別な事情がある場合には本登録後のプログラムの変更も可能です。

2 修了要件

本履修ガイド末尾に記載している、『副専攻プログラムに関する内規』および『履修に関する申し合わせ』に従い、それぞれのプログラムに必要な単位（16単位）を在学期間中に履修してください。修了のためには、最低でも2セメスター（4クォーター）以上の履修登録が必要です。

3 修了証書

2の修了要件を満たした学生には、卒業時に、自らが所属する学部の学位に加え、文系4学部副専攻プログラム修了証が授与されます。各プログラムの成績優秀者には、優秀賞が授与されます。

3 文系4学部 副専攻プログラムの内容

1 横断型プログラム

現代のための歴史

1 どのような力をつけることができるプログラムか?

現在や未来の日本社会・国際社会そして文化・産業を、過去の経験の蓄積をとおして理解し、それをもとに新たな発想を生み出すことのできる人材を育成し、そのような人材を必要とする、あらゆる企業、官庁、NPO、文化活動のニーズに対応できるようにします。

2 プログラムの特長

現代の日本社会・国際社会を理解し、そのなかで活躍する人材を育成するためには、それぞれの地域・社会・分野を、現在にいたるまでの歴史の蓄積によって形成されるものとして、歴史的に理解する力を涵養する必要があります。歴史的に理解する力とは、特定の地域の文化や習慣を理解し、また特定の産業分野や学問分野の成り立ちと特徴を理解する力であり、そのような視点を獲得するための方法論を身につけることです。本プログラムは、このように、学生が自らの活躍する分野とそれを取り巻く環境を、歴史的視野から理解し判断する能力を提供します。広範な分野で活躍する人材に、こうした歴史的視点を提供するためには、人文学のみならず、文系のあらゆるディシプリンにおける、歴史的観点からの学問知見を総合的かつ包括的に教育する体制が必要となります。このため、人文学、法学、経済学、教育学のすべての分野にまたがる歴史学及び歴史にかかわる授業を横断的にとりまとめ、そのなかから皆さんが、自らの将来に有益な組み合わせで歴史的な視野と知見を身につけるプログラムを用意します。

クロス・アジアの人間と社会

1 どのような力をつけることができるプログラムか?

グローバル化の進む世界において、私たちがアジアに生まれ、育ち、生きているということをあらためて問い直すことがいま必要とされています。このプログラムでは、そのような視点から人間や社会を理解するために、アジアという地域や空間性において醸成されるリージョナル・アイデンティティや市民性概念の生成／形成の過程、それらと同時に進行するマイノリティの排除と包摂のポリティクスに注目し、アジアの社会的、文化的、歴史的、政治的文脈に対して反省的／批判的／越境的まなざしを向けることを目指します。このプログラムの受講によって、特にアジア諸国との関係、さらにそのグローバルな文脈における諸事象の意義や今後の展開のあり方、そして人々の「生」への深い洞察を遂行する力が醸成されることが期待されます。そうした能力は、アジア諸国と交流する都市や行政区の公務員、商社、製造業などの企業やNPO、マスメディアや教育・心理に関わるさまざまな分野での活躍を志向する学生、さらには文系諸学の研究者を目指す学生にとって、重要な資質となるはずです。

2 プログラムの特長

本プログラムは、アジアのゲートウェイに位置し、「アジアにおける教育研究ネットワークの構築」を国際戦略として有する九州大学における研究知を結集し、アジアに関わる政治、経済、法などの社会科学分野の知見と、言語や文化、思想などの人文学分野の知見に加え、人間形成や心理に関わる諸研究を有機的、かつ総合的に習得することを目指すものです。特に、アジアという時空間や概念を軸としながら、アジアの外へと越境していく回路と、アジアの内にある多様性・複雑性へとまなざしを向けていく回路とを交差させる「クロス・アジア」の視座を習得することで、これまでの西洋近代的視点を問い直し、多彩でありうる世界を真摯に捉える可能性へと開かれていくはずです。

超情報化社会の文系知

1 どのような力をつけることができるプログラムか?

情報通信ネットワーク技術が日進月歩の勢いで高度化する現代社会においては、私たちの日常生活の隅々にまで、その影響が及びつつあります。私たち全てが、情報の受け手であるにとどまらず、情報を生み出すとともに、それらを世の中に拡散させることができる潜在的な可能性を秘めている現状では、プライバシーや知的財産権をはじめとした諸問題を社会的に統御する必要性は高まる一方です(この観点からは、法学、教育学の貢献がとくに求められるでしょう)。また、人工知能をはじめとする情報通信ネットワーク技術の進展は、「シェアリング・エコノミー」に代表されるように、私たちの従来の「ものの考え方」や行動様式を一変させる可能性を現実のものとしつつあります(この観点からは、経済学、人文学の貢献がとくに求められるでしょう)。このような状況にあっては、それらの技術革新が様々な産業分野に及ぼす影響や、そこにおける規制のあり方を含めて、近い将来における社会のあるべき姿を今から考え、適切な社会制度を設計できるような能力を有する人材を育てることが大学にも求められているはずです。本教育課程は、これらの社会的ニーズに的確に応えるべく、超情報化社会における社会規制の制度設計を行うことができるような人文社会科学分野のエキスパート養成を目指します。

2 プログラムの特長

上記のような超情報化社会の諸課題に応えるためには、まず、文系諸学問の知を総合する必要があります。それに加えて、超情報化社会における社会規制の制度設計を考える際には、人の行動をある一定の方向に誘導するための方策が決して法的な介入に限られないことに留意する必要があります。法的な手法に頼るよりは、市場メカニズムを用いることや、あるいはよりソフトな手段である「社会規範」に統制を委ねることのほうが、より適切であるかもしれないからです。このような多様な統制手法の役割分担を考えるためには、人文科学・社会科学の諸分野における様々な知見に触れるとともに、そこで展開されている学問的方法論に習熟することが必要不可欠です。そのため、本教育課程では、超情報化社会にかかわる文系諸学問の知を総合的に学ぶことを目指します。

グローバル時代のビジネス

1 どのような力をつけることができるプログラムか?

本プログラムはビジネスで活躍する卒業生からの「国際人、企業人になるにはリベラルアーツ(ディシプリン横断型の教育プログラム)が不可欠」という意見を反映させて作られています。当然ながら、グローバル化が進む現代社会で活躍するためには、グローバル社会の普遍的価値のみならず、アジアやイスラム圏など各国・地域のローカルで多様な文化(価値・言語・歴史)と、そうした文化を基盤に築かれている政治・経済・社会の内在的理解は欠かせません。要するに、現代社会においてグローバルに活躍できる社会人となるためには、文系各学部の枠を越えた実践的な知の体系と地域理解が求められているのです。本プログラムでは、文系4学部の「グローバル」ないし「ビジネス」に関連する科目を、ディシプリンを超えて体系的に学ぶことができます。地球上のどの地に身を置くことになっても、高いコミュニケーション力をもってローカル社会に適応し、相互理解に基づき互恵的関係を構築することができる、スケールの大きい「真のグローバル・ビジネスパーソン」の基礎を身につけることができます。

2 プログラムの特長

本プログラムは、現実のビジネスの現場で活躍する九州大学文系学部卒業生の意見を反映させる形で組み立てられており、人文学・社会科学の専門教育を基盤として、それらを「グローバル・ビジネス」というシングルイシューで括った学際型プログラムです。即ち、文系4学部がそれぞれに持つ、大学院にも接続する学部専門教育カリキュラムの体系を踏まえつつ、それらを横断する形で「グローバル」もしくは「ビジネス」に関連する講義をそろえて、体系的に学ぶことができる魅力的なプログラムです。

2 専門領域型プログラム

文学部・専門領域型副専攻プログラム

概要

1 副専攻選択の時期　2年次からとする。

2 ゼミ

演習科目については、担当教員の判断で受講可（ただし、別表に掲げるもの以外は副専攻プログラムの修了単位にはならない）。

3 副専攻の種類・数

①「哲学プログラム」、②「歴史学プログラム」、③「文学プログラム」、④「人間科学プログラム」の4種類とする。

1 哲学プログラム

● プログラムの特色

人類は東西の様々な文明圏において、多様な宇宙観・世界観・人間観・生命観・倫理観を創り出し、各時代を通じてそれを展開させてきました。また、生と死・老いと病を見つめることで、各種の宗教を生み出し、信仰の諸形態を作り出してきました。さらに崇高なるものを希求して豊かな美の世界を展開してきました。哲学コースを構成する各専門分野では、人類が生み出してきたこれらのものを、現代が抱える諸問題ー環境問題・生命倫理・民族問題などーをも視野に入れ、主として文献と資・史料に基づいて理解する力、そして問題を解決していく力を養います。

● 必要単位数　16（必修4単位）

● 修了者の想定進路

マスメディア、NPOなど文化の発展に寄与する職業や、社会の諸問題の解決に根本的なところで貢献することのできる職業。哲学・芸術・思想を中心とした教育分野。哲学分野の大学院。

2 歴史学プログラム

● プログラムの特色

歴史学は、過去の探求と現代の認識とのーさらには未来への見通しとのー間の相互対話の中でなされる精神的営みです。つまり、現代社会の成り立ちへの関心、現代とそれ以前の「異文化」社会との異質性・同質性への関心を重視する学問です。本コースは、特定の地域と時代における社会（経済・政治・文化の総体）の特質と相互間の共通性を、批判精神をもって実証的に、また理論的に解明することに主眼をおいています。具体的には、先学の著作を批判的に読む中で自らの問題関心を鍛え直してシャープなものとし、次いで、自ら直接に史・資料を解読し史跡を調査することにより、自らの視覚から、ある特定の地域と時代の社会像を復原することが求められます。この過程で、人間精神の多様性を認識するセンス、論理的思考力と独創性が養われるのです。

● 必要単位数　16（必修4単位）

● 修了者の想定進路

マスメディア、NPOなど社会と文化の発展に寄与する職業。国外や国内諸地域の歴史的文化的背景に関する知識を必要とする企業（商社、製造業、販売業）。日本史・世界史を中心とした教育分野。歴史分野の大学院。

3 文学プログラム

●プログラムの特色

文学コースは、日本・中国・英米・独・仏の言語や文学を研究するコースで、それぞれ古典から現代までの、具体的かつ多様な文学作品（詩・小説・戯曲・思想的著作・批評など）を精査解読し、作品の背景をなす文化や、さらには文学そのもの（ないしは、いわゆる「文学性」）について省察します。本コースでは、日本語・中国語・英語・独語・仏語など言葉そのものを研究対象とすることもできます。外国文学系の専門分野にはいずれもそれぞれの言語を母国語とする優秀な外国人教師が配置され、生きた外国語による授業が行われています。

●必要単位数　16（必修2単位）

●修了者の想定進路

マスメディア、NPOなど文化の発展に寄与する職業。国外や国内諸地域の文化的言語的背景に関する知識を必要とする企業（商社、製造業、販売業）。日本語・外国語を中心とした教育分野。文学分野の大学院。

4 人間科学プログラム

●プログラムの特色

人間科学コースは、人間を科学的に研究するコースで、社会と人間との関係の中から問題を発見し、仮説を立て、それを実験・調査・フィールドワーク、統計解析により実証するという実践的調査研究を行っています。人間の行動や心理、さらに個人と社会の相互作用にも関心を寄せ、いわば人間・社会研究の視点から教育・研究を進めており、現代社会のさまざまな現象を包括的に把握して、産業化、情報化、高齢化、国際化などをめぐって生じる問題の解決にも取り組んでいます。言語学、地理学、心理学、宗教学、社会学といった学問領域からなる本コースには独自の学問研究の成果が期待されています。

●必要単位数　16（必修2単位、選択必修2単位（概論5科目のうち1科目））

●修了者の想定進路

マスメディア、NPOなど社会の発展に寄与する職業。国外や国内諸地域の社会的・人間的背景に関する知識を必要とする企業（商社、製造業、販売業）。人間科学を中心とした教育分野。関連分野の大学院。

教育学部・専門領域型副専攻プログラム

概要

1 副専攻選択の時期

2年次当初とする。ただし、3年次・4年次においても面談等を条件に遡及認定可。

2 ゼミ

ゼミは担当教員の判断で受講可。

3 副専攻の種類・数

①「教育学・心理学から見た『個と多様性』」、②「教育学・心理学から見た『文化とシステム』」の2種類とする。

1 教育学・心理学から見た『個と多様性』

● プログラムの特色

本プログラムは、心理学と教育学のなかでも「個」と「多様性」に関わる専門諸領域の科目を提供することで、人間の成長・発達をさまざまな他者たちとの関わりのなかで捉える視点を習得することを目指すものです。この学修を通して、人間を個的であると同時に集合的でもある存在として捉え、社会的・人間的な多様性への感度を高めることが期待されます。

● 必要単位数　16（内訳:基盤科目4単位、展開科目12単位）

● 修了者の想定進路

心理学・教育学の大学院、心理・教育専門職、教育行政職、教員

2 教育学・心理学から見た『文化とシステム』

● プログラムの特色

本プログラムは、心理学と教育学のなかでも文化やシステムに関わる専門諸領域の科目を提供することで、人間の生やその形成を文化的・社会的な制度（例えば、学校や病院）、さらには多様なシステム（言語や知や規範など）との関係において捉える視点を習得することを目指すものです。この学修を通して、文化・社会的な存在としての人間理解へと至ることが期待されます。

● 必要単位数　16（内訳:基盤科目4単位、展開科目12単位）

● 修了者の想定進路

心理学・教育学の大学院、心理・教育専門職、教育行政職、教員

法学部・専門領域型副専攻プログラム

概要

1 副専攻選択の時期
2年次当初とする。ただし、3年次・4年次においても面談等を条件に遡及認定可。

2 ゼミ
ゼミは担当教員の判断で受講可（ただし、副専攻プログラムの単位にはならない）。

3 副専攻の種類・数
①「法の文化と歴史」、②「行政と法」、③「企業と法」、④「犯罪と法」、⑤「国際ビジネスと法」、⑥「政治」の6種類とする。

1 法の文化と歴史

● プログラムの特色

現代社会においては、グローバル化の進展とともに、「文化の多様性」や「多元主義」に向き合う重要性が増しています。「法の文化と歴史」の副専攻プログラムでは、多様な法文化や法制度に対する理解を深めるべく、実定法や裁判例などの背後に存在する理論的・歴史的・動態的な知識を獲得します。そして、それを通じて、現代社会における先端的な法領域における理論的諸問題に取り組むための素養を身につけることを目指します。

● 必要単位数 16（内訳：基盤科目6単位以上、展開科目10単位以上）

● 修了者の想定進路 法学の大学院、教員

2 行政と法

● プログラムの特色

グローバル化の進展、そして、地方における活力ある社会づくりの要請は、伝統的な国家の役割に変化をもたらしつつあります。また、「文化の多様性」や「多元主義」が進む現代社会においては、「社会的包摂」と社会における連帯を確保する重要性が増しています。「行政と法」の副専攻プログラムでは、人権保障を重視する観点から、これらの諸問題の理論・歴史・動態についての知識を獲得し、これからの社会における発展的な制度設計に取り組むことができる素養を身につけることを目指します。

● 必要単位数 16（内訳：基盤科目8単位以上,展開科目8単位以上）

● 修了者の想定進路 法学の大学院、公務員（行政職・法律職）、マスコミ

3 企業と法

● プログラムの特色

情報通信技術の技術革新、経済活動のグローバル化、社会における価値観の多様化などが同時に進行する現代社会においては、企業間の取引、企業と消費者の間の取引、企業組織の形態、金融の仕組み、取引活動の過程で生じるリスクへの対処など、企業が関係する様々な局面において大きな変化が予想されます。「企業と法」の副専攻プログラムでは、民法や商法をはじめとする企業に関係する法分野に対する理解を深めることで、これからの社会における企業を取り巻く法的問題に対応できる素養を身につけることを目指します。

● 必要単位数 16（内訳：基盤科目8単位以上、展開科目8単位以上）

● 修了者の想定進路 法学の大学院、企業、弁護士

4 犯罪と法

●プログラムの特色

刑事法の領域においては、「司法制度改革」の一環として、裁判員制度や検察審査会など、司法への市民参加の制度が導入されてきました。また、近時は、産地偽装、粉飾決算などの、企業が主体となる犯罪行為（いわゆる「企業犯罪」）を目にすることも珍しくなく、企業が果たすべき「法令遵守（コンプライアンス）の関係で刑事法に期待される役割も大きくなっています。「犯罪と法」の副専攻プログラムでは、刑事法や刑事政策に関する理解を深め、現代社会における刑事法制度に関する諸問題に対応できる素養を身につけることを目指します。

●必要単位数　16（内訳：基盤科目12単位以上、展開科目4単位以上）

●修了者の想定進路

法学の大学院、公務員、企業、弁護士

5 国際ビジネスと法

●プログラムの特色

日本企業であっても、外国企業との取引や外国における雇用などに関わることが増えてきています。また、インターネットなどの情報通信技術の技術革新が進むことによって、企業活動が一国の中で完結することはますます難しくなっています。「国際ビジネスと法」の副専攻プログラムでは、国際経済法、国際取引法、知的財産法などの法領域の理解を深め、それを通じて、グローバル化の進む現代社会における国際ビジネスに関係する法的諸問題に対応できる素養を身につけることを目指します。

●必要単位数　16（内訳：基盤科目8単位以上、展開科目8単位以上）

●修了者の想定進路

法学の大学院、国際公務員、NGO職員、企業

6 政治

●プログラムの特色

現代社会においては、グローバル化に伴う諸問題への対応とともに、異なる「ものの考え方」を有する人たちの「多様性」をいかに尊重し、「社会的包摂」を実現するのか、という課題に応えることが要請されています。「政治」の副専攻プログラムにおいては、政治学に関係する諸問題についての理解を深めることにより、多文化が共存できる現代社会を実現するための制度設計を行うことができる素養を身につけることを目指します。

●必要単位数　16（内訳：基盤科目8単位以上、展開科目8単位以上）

●修了者の想定進路

政治の大学院、議員、公務員、企業

経済学部・専門領域型副専攻プログラム

概要

1 副専攻選択の時期

2年次当初とする。ただし、3年次・4年次においても面談等を条件に遡及認定可。

2 ゼミ

ゼミは担当教員の判断で受講可（ただし、4単位を上限とする）。

3 副専攻の種類・数

「経済学・経営学のツールで解く現代社会の諸課題」の1種類とする。

1 経済学・経営学のツールで解く現代社会の諸課題

●プログラムの特色

グローバル化・情報化が進む現代社会が直面する複雑で多様な諸課題について、経済学・経営学の基礎的な理論やツールを用いて解決に取り組むことができる人材を育成することを目的としています。特に、経済学、統計数理・計量、経営、会計、国際経済、経済史というテーマ別のコースを設け、受講者の関心に応じて学習するトピックを選択できるように設計しており、効率的に各テーマを深く学習できます。各コースの学習を終えた後、当該分野を研究するために大学院に進学することも想定しています。

●必要単位数　16単位（2年次基盤（基本）科目8単位＋3-4年次展開（選択必修）科目8単位）

●修了者の想定進路

経済学大学院への進学、国際機関、民間企業、公務員

4 履修のモデル・ケース

以下では、文系の4つの学部に在籍する学生にとっての履修モデルを学部別に、横断型・専門領域型に分けて例示します。もちろんこの例示以外にも非常にたくさんの履修方法があります。

文学部生にとっての履修モデル・ケース

横断型　クロス・アジアの人間と社会

A君は「言葉を通じて、人間の本質とその営為を探求すること」という文学部の学問観に魅せられるとともに、「人文学的教養と知性を身につけ、研究や仕事の場で活躍する優れた人材を養成し、社会に送りだす」という同学部の教育理念に共鳴して文学部に入学しました。基幹教育院での教養教育、さらには学部の基盤科目を順調に履修していく中で、数年後の進路について真剣に考え始め、「アジア」をフィールドとした調査研究を通して国際社会でも活躍することを目指したいと考えるようになりました。

2年次の学部オリエンテーションにおいて文系4学部副専攻プログラムを知るに至り、特に自分自身の問題関心に合うプログラムである横断型の「クロス・アジアにおける人間と社会」に登録しました。このプログラムは、多様なアジア的視点と西洋的視点を交差させながら近代社会や人間そのものを問う態度を涵養するとともに、「リージョナル・アイデンティティや市民性概念の生成／形成の過程」、「マイノリティの排除や包摂のポリティクスをめぐる社会的、文化的、歴史的、政治的文脈」に対する反省的まなざしを養成することをうたっており、文学部の理念とも大いに共鳴するものだと言えます。

同プログラムでは文学部の歴史学コースに加え、教育学部開講のEducation and modern state formation in Asia and EuropeやDemocracy and Educationなどの学部副専攻科目群、また法学部の「比較政治学」や「アジア法」、さらには経済学部の「グローバル化とアジア経済」などの科目群から体系的に学ぶことができ、A君の知的基盤は高度かつ多彩で学際的な広がりを持つに至りました。

文系4学部の副専攻プログラムはA君の大学生活を知的関心に満ちた4年間にするものとなりました。文学部に所属しながら、教育学、法学、経済学の学問的視座を通して、アジアの多様性と西洋的な思考様式を捉え直す視点を学ぶことが出来たことで、長年の夢であった国際機関でのインターンシップが可能となり、国連やユネスコやJICAで活躍する道が拓かれることになりました。また、国際機関での経験を経て、数年後にはさらなる知の高度化を目指して、九州大学人間環境学府教育システム専攻で学ぶことも視野に入れることが可能になると言えます。

専門領域型　法学部　犯罪と法

Bさんは、ヒトの「こころ」のメカニズムに関心を持ってきました。大学では、この分野についての知識を深めたいと考え、心理学を勉強したいと希望して、九州大学文学部に入学しました。専門教育課程においては、文学部人文学科人間科学コース心理学分野に所属して、心理学についての研究を行うことにしました。

ある日、Bさんが新聞を読んでいると、ある刑事事件においてなされた証言について、当該証人が実際に現場で見

聞きした内容が事後的なニュース報道などの情報によって歪められた可能性があるという記事に接しました。証人の記憶や語られ方によって、被告人の有罪または無罪に影響する可能性があるという事実に、Bさんは大きなショックを受けました。

刑事手続における証言の取り扱いについて考えるためには、犯罪心理学に加えて、法学の知識が必要となります。Bさんは、2年次の学部オリエンテーションで、文系4学部副専攻プログラムの存在を知り、その中の「犯罪と法」というコースが、まさに自分が深めたいと思っていた内容にピッタリであると考え、履修することを決めました。

Bさんは、文学部において心理学に関係する科目を履修することに加えて、法学部において提供されている刑法、刑事訴訟法、刑事政策などの、刑事法に関する科目を履修しました。これにより、心理学と法学の両方についての理解を深めることができました。

Bさんは、この副専攻プログラムで学んだ内容を、職業法律家として、社会において実際に生かしたいと考えるようになりました。Bさんは現在、法科大学院に進学し、将来の法律家を目指して勉学に励んでいます。

教育学部生にとっての履修モデル・ケース

横断型　グローバル時代のビジネス

C君は「多様な文化や意見を尊重する開かれた態度による知恵や共生の構築を通じ、教育や人間形成の未来像を描くことのできる人材を養成する」（九州大学教育学部HP）という教育学部の研究教育理念に魅せられ、同学部に入学しました。学部の基盤科目も順調に履修を終え、数年後の自分の進路を真剣に考え始める中で、多様性や共生を重んじるこうした理念を、民間企業、それも日本とは異なる文化圏との間で実際にビジネスを営んでいる企業で実践したいと考えるようになりました。

2年次の学部オリエンテーションで、文系4学部副専攻プログラムの存在を知り、数あるプログラムの中でも自分の問題意識にピッタリと合うプログラムを発見。それが横断型の「グローバル時代のビジネス」でした。このプログラムは「地球上のどの地に身を置くことになっても、高いコミュニケーション力をもってローカル社会に適応し、相互理解に基づき互恵的関係を構築することができる、スケールの大きい『真のグローバル・ビジネス人材』」を育成するとうたっており、教育学部の理念とも重なるところ大だと感じ、迷わず本登録を行いました。

同プログラムでは教育学部の国際教育文化コース開講科目に加え、経済学部の経営系科目群や法学部の国際法・アジア法を基本・基盤科目から体系的に学び、さらに中国・インド・イスラムの歴史や文化に関する授業を学べたことで、C君の知的基盤は時間・空間ともに爆発的に広がり、充実した4年間となりました。

文系4学部副専攻プログラムはC君の期待を裏切ることはありませんでした。教育学部に所属しながら、グローバル・ビジネスに役立つ法学や経営学の考え方のみならず、アジアの歴史・文化を広く学んだことは、就職活動でも高く評価され、アジアに展開を進める日本のインフラ系企業に就職することができました。しかし、C君の知的活動はそれにとどまりません。ビジネスの現場で学ぶ現地の語学や経験を携えて、数年後には九州大学ビジネススクールで学んでみたいと、次のステップへの夢がさらに広がっています。

専門領域型　文学部　人間科学プログラム

Dさんは「多様な文化や意見を尊重する開かれた態度による知恵や共生の構築を通じ、教育や人間形成の未来像を描くことのできる人材を養成する」（九州大学教育学部HP）という教育学部の研究教育理念に魅せられ、同学部に入学しました。学部の基盤科目も順調に履修を終え、数年後の自分の進路を真剣に考え始める中で、現代の日本が抱える少子高齢化や福祉・過疎などのさまざまな問題と取り組む現場で働きたいと考えるようになりました。

2年次の学部オリエンテーションで、文系4学部副専攻プログラムの存在を知り、数あるプログラムの中でも自分の問題意識にピッタリと合うプログラムを発見。それが、文学部が提供する専門領域型の「人間科学プログラム」で

した。このプログラムでは、地理学や社会学・地域福祉社会学、比較宗教学などの専門分野でフィールドワークがあり、「社会と人間の関係の中から問題を発見し、仮説をたて、それを実験・調査・フィールドワーク、統計解析により実証するという実践的調査研究を行」うとうたっており、教育学部の理念とも重なり、また自分の指向性にも合っていると感じ、迷わず本登録を行いました。

同プログラムでは、実際にフィールドに入って住人と対話したり、アンケートの集計など統計の取り方を実習したりして、現実の社会はどういった視点・方法で捉えられるか、さまざまな経験を積みました。もちろんそれぞれの方法についての理論的裏付けや、これまでに得られた経験則など、興味深い講義も面白く聴くことができました。日本の過疎地や施設ばかりでなく、フィリピンや韓国での社会問題について現地で考えるなど、Dさんの知的基盤は時間・空間ともに爆発的に広がり、充実した4年間となりました。

文系4学部副専攻プログラムはDさんの期待を裏切ることはありませんでした。教育学部に所属しながら、どうしたら人間社会を分析でき、論理的に未来像を構築できるかについて基礎的な素養を持つことが出来ましたが、自分にしか出来ない、社会に役立つ仕事を見つけるためには、もう少し分析の手法を磨き、いろいろな考え方を知り、体系的な処方箋を書くことが出来るようになりたいとの思いから、人間環境学府に進学することにしました。

法学部生にとっての履修モデル・ケース

横断型　現代のための歴史

法学部は、「現代社会の法的・政治的諸問題を多様な観点から読み解き」、問題に対応する「基盤的専門知識と技能」、その知識と技能をもとに「問題解決に向けて批判的・創造的な見地から新たなルールや政策」を形成できる能力の修得を教育目標に掲げています（アドミッションポリシー）。

法学部の教育は、官庁への就職を考えていたEさんにとって、将来に必要な能力を得る上で最適のものでした。官庁の仕事は、まさに「今」の問題に取り組み、解決をめざすものであり、その判断の基準が専門とする法学・政治学の知識になります。ただ、法学・政治学を学んでいく中で、他の専門分野についても理解を深める必要性と共に、「今」の社会の成り立ちを知る上での「過去」の重要性を痛感するようになりました。

そこで、文系4学部副専攻プログラムである「現代のための歴史」に登録することにしました。このプログラムでは、「現代社会の日本社会・国際社会を理解」し、活躍するために、「それぞれの地域・社会、産業分野や学問分野を過去から現在にいたる蓄積によって形成されるものとして歴史的に理解する力」の獲得をめざしています。

もちろん、法学部にも法学・政治学、「法」や「政治」について歴史的な観点を用いた講義は多くありますが、このプログラムの履修は、歴史という観点によって、他分野や異なる社会・地域についての専門知識を得る手がかりになると考えました。

「現代史入門」を履修することで、日本・アジアを中心に、国際関係を視野に入れた、現在の前提となる近現代史を概観することができました。文学部では、「史学概論」や各地域についての講義で歴史学の方法論・視点を学びました。さらに、経済学部の経済史、教育学部の教育社会史などで、他専門分野の観点で描く歴史像を知ることができました。

そうした専門とは異なる視点や知見を背景に、法学部の政治史、日本法制史、西洋法制史、ローマ法などの基礎法学については、専門の法学・政治学と歴史・歴史学や他の分野とを包括して理解することができました。

「現代のための歴史」によって、「過去への時間軸と現在の空間軸をつなげる」視点を獲得できたことは、その後の進路にとっても有意義でした。法学部に所属することで得た法学・政治学の専門知識と、現在の日本社会・国際社会、文化・産業への歴史的な知見を通じた通時的な理解は、就職活動でも高く評価され、希望する官庁に就職することができました。

実際に働く中では、「今」の「問題」について、「正解」が一つではない、判断に必要な情報が必ずしも十分ではないといった事態が生じます。その時に、「現代のための歴史」を通じて獲得できた、歴史という時間軸あるいは他の地域という空間軸の視点は、問題解決のための一つの要素として役立っています。

専門領域型

経済学部 経済学・経営学のツールで解く現代社会の諸課題

F君は「ルール形成や政策形成をリードすることのできる高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人を組織的に養成する」という法学部の教育目標にひかれて、九州大学法学部に入学しました。将来、企業の法務部門で働くことを考えながら順調に履修してきましたが、就職を真剣に考えたとき、近年注目を集めているIT企業、特に海外のIT企業で働きたいと考えるようになりました。

入学時から副専攻プログラムのことは知っていましたが、履修ガイドを見てみると経済学部の専門領域型副専攻プログラム「経済学・経営学のツールで解く現代社会の諸課題」では情報関係科目を多く履修できることに気づきました。このプログラムを履修すれば、情報処理や数理分析の専門的な知識が得られるだけではなく、プログラム終了の認定も得られ、将来の進路選択においても有利になるのではと思ったのです。また、将来経営に携わる可能性も考えると、経営関係科目特に実務上重要な会計学の科目が充実していることにも魅力を感じました。そこで、L君は迷わずこのプログラムを登録しました。

F君は具体的なキャリアプランを持っていたことから、基本科目として情報処理及び経営学、会計学の科目を中心に履修し、その他に統計学やマーケティング、管理会計などの科目を履修しました。情報や統計学の学習には数学が必要なので日々の学習は大変でしたが、無事履修を終えて自分自身に自信を持てるようになりました。

元々高い能力を有していたこともありましたが、副専攻プログラムで学んだ情報や経営に関する知識が評価されて、F君は日本にある外資系のIT企業に就職することができました。一方で、本社研修を経験して、最先端のコンピューターテクノロジーに関する知識が足りないと感じ、海外の情報関係大学院に進学することも視野に入れています。IT関係でキャリアを積み、将来は起業するという夢に着々と近づいています。

経済学部生にとっての履修モデル・ケース

横断型

超情報化社会の文系知

G君は、将来は商社で働きたいと考え、九州大学経済学部に入学しました。専門課程教育では、国際ビジネスについて経営の観点から理解を深めたいと考え、経済・経営学科において研究を進めています。

G君は最近、政府が公表した報告書の中で、社会における様々な活動がデータ化され、そうした「ビッグデータ」の分析および利活用がなされることによって、従来は人間が行ってきた多くの作業が自動化され、伝統的なビジネスモデルに大きな変化がもたらされるだろうという内容が書かれていることを知りました。G君は、社会を取り巻く状況が大きく動く可能性がある中で、自分の今後の進路について考え直すとともに、今後の社会のあり方を探りたいと考えるようになりました。

G君は、2年次の学部オリエンテーションで、文系4学部副専攻プログラムの存在を知り、その中の「超情報社会の文系知」というコースが、今後の情報社会において領域横断的に勉強したいという、自分の希望を叶えてくれる内容なのではないかと考え、履修することを決めました。

G君は、経済学部で提供される情報経済、金融システムなどの科目に加えて、情報法、知的財産法、社会調査法、ネットリテラシーなどをはじめとする副専攻プログラムで提供される科目を受講しました。これにより、今後の超情報社会における課題について、領域横断的な知識を身につけることができました。

G君は、自分がずっと働きたいと思ってきた商社において、この副専攻プログラムで学んだ知見を生かして仕事をしたいと考えました。G君は現在、商社において、ビッグデータを活用し、途上国における農業の生産性を上げる活動に従事しながら、やりがいを感じています。

専門領域型　教育学・心理学から見た「個と多様性」

Hさんは九州大学経済学部の掲げている、「ますます変化を速めつつある現代社会のなかで、経済の動向を的確に把握し、創造的な問題解決能力を持ち得る人材を養成すること」という理念に深く感銘を受け、同学部に入学しました。学部の基盤科目も順調に履修し、数年後の自分の進路を真剣に考える中で、現実社会において常に創造的な視点に立って活躍できるような企業で自分の可能性を試したいと考えるようになりました。

2年次の学部オリエンテーションにおいて文系4学部副専攻プログラムを知るに至り、特に自分自身の問題関心に合うプログラムである専門領域型の「教育学・心理学から見た「個と多様性」」に登録しました。このプログラムは、教育現象や人間の心理を巡る教育学と心理学の多彩な領域を網羅的に含んだプログラムであり、人間の個としての実存や心理についての探求に加え、そうした人間たちが集合することによる力学やその多様性にまで視野を広げることを目指したものです。今日の多様な社会状況を的確に分析するためにも、個と多様性を双方から問う視座を得ることは重要だと感じ、本プログラムを選択しました。

このプログラムでは、教育学部の二つの専門領域である教育学と心理学の基礎的な学問体系を学ぶと共に、文化人類学や教育計画・測定評価論などの教育学と心理学の近接／境界領域の知見も踏まえて、人間の個と多様性について多角的視点から学ぶことができました。この学びを通して、Hさんの視野は大いに広がると同時に、社会の中に含まれる多様な人々の有り様を具体的にイメージすることも可能になったと言えます。

文系4学部副専攻プログラムは、Hさんにとって想像を超える可能性を切り拓くに至りました。経済学部に所属しながらメジャーとして経済学を専攻し、マイナーとして心理学（または教育学）を副専攻として学ぶことで、人間の内的志向への感度を高め、社会を平板なものとして捉えることのない高密度の視野を獲得することができました。それは多彩なニーズを掘り起こしていく原理的なスタンスとして、戦略的にマーケットを創造することに長けた企業からも高く評価され、就職活動における最大の強みとなったと言えます。

5 履修内規と履修に関する申し合わせ

履修内規

九州大学文学部、教育学部、法学部及び経済学部副専攻プログラムに関する内規

平成30年２月23日
箱崎文系地区協議会決定

（趣旨）

第１条　この内規は文学部規則第３条の３、教育学部規則第２条の２、法学部規則第４条の２及び経済学部規則第２条の３の規定に基づき、文学部、教育学部、法学部及び経済学部副専攻プログラム（以下「文系４学部副専攻プログラム」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（プログラム責任者）

第２条　文系４学部副専攻プログラムの各学部における責任者（以下「プログラム責任者」という。）は、学部長とする。

（副専攻担当教員）

第３条　文系４学部副専攻プログラムを担当する教員として、各学部１名の教員（以下「副専攻担当教員」という。）を置く。

（運営委員会）

第４条　文系４学部副専攻プログラムの重要な事項を審議するため、文系４学部副専攻プログラム運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

第５条　運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1)　文学部長
(2)　教育学部長
(3)　法学部長
(4)　経済学部長
(5)　副専攻担当教員　４人
(6)　文学部の専任教員のうちから各学部長が指名する者　２人
(7)　教育学部の専任教員のうちから各学部長が指名する者　２人

⑻　法学部の専任教員のうちから各学部長が指名する者　２人
⑼　経済学部の専任教員のうちから各学部長が指名する者　２人
⑽　その他運営員会が必要と認めた者

（委員長）

第６条　運営委員会に委員長を置き、プログラム責任者の互選により選出する。

２　委員長は、運営委員会を主宰する。

３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（プログラム委員会）

第７条　運営委員会に、文系４学部副専攻プログラムの企画・運営等を行わせるため、文系４学部副専攻プログラム委員会（以下「プログラム委員会」という。）を置く。

第８条　プログラム委員会は、第５条第５号から第９号までの委員をもって組織する。

２　第５条第６号から第９号までの委員の任期は１年とし、再任されることができる。

３　プログラム委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

４　委員長は、プログラム委員会を主宰する。

５　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（授業科目、履修方法等の決定）

第９条　文系４学部副専攻プログラムに置くプログラム、授業科目、単位数及びプログラム修了に必要な最低修得単位数は、別表のとおりとする。

２　文系４学部副専攻プログラムの授業科目、履修方法等は、運営委員会で決定のうえ、各学部教授会に報告する。

（プログラムの登録）

第10条　文系４学部副専攻プログラムを履修する学生は、所定の様式により、学生が所属する部局長へプログラム名を届け出て登録するものとする。学生の登録状況は、プログラム委員会で確認する。

２　文系４学部副専攻プログラムの登録は、文系各学部２年次以降とする。

３　本学の文系４学部のいずれかの学部を卒業した者は、科目等履修生として登録することができる。

４　プログラム決定後、特別な事情がある場合は、別に定める期間に変更を申し出ることができる。

（プログラムの修了要件・認定）

第11条　文系４学部副専攻プログラムの修了は、次の全ての要件を満たした者について、認定する。

①　副専攻プログラムの履修を登録していること。

②　第９条に定める単位数を修得していること。

③　本学の文系４学部のいずれかの学部の卒業要件を満たしていること。

２　文系４学部副専攻プログラムの修了認定は、運営委員会で行う。

（修了証の交付）

第12条　文系４学部副専攻プログラム横断型プログラム修了証は、プログラム責任者４名の連名で交付するものとし、学位記授与式の際に併せて学生が所属する学部長から授与する。

２　文系４学部副専攻プログラム専門領域型プログラム修了証は、学生が所属する学部及び学生が登録したプログラムを担当する学部のプログラム責任者の連名で交付するものとし、学位記授与式の際に併せて学生が所属する学部長から授与する。

（表彰）

第13条　優秀な成績でプログラムを修了した学生には、プログラム委員会の審議を経て、運営委員会で決定し表彰することができる。

附　則

1　この内規は、平成29年４月１日に本学部に入学する者から適用する。

2　この内規の制定後、最初に任命される委員の任期は、第８条第２項の規定にかかわらず、平成30年３月31日までとする。

履修に関する申し合わせ

文系４学部副専攻プログラムの履修方法等に関する申し合わせ

平成30年２月23日
箱崎文系地区協議会決定

文系４学部副専攻プログラムの履修方法等に関し、以下のとおり申し合わせる。

1　文系４学部の学生全員は、２年次進級時に希望する文系４学部副専攻プログラムの仮登録を行う。

2　仮登録後、文系４学部副専攻プログラムを履修する学生は、プログラム名を２年次以降の履修登録期間中に、学生が所属する学部長へ届け出て登録するものとする。

3　文系４学部副専攻プログラムの登録数は２プログラムを上限とする。

4　専門領域型プログラムの登録は、学生が所属する学部のプログラムには登録することはできない。ただし、文学部については、自身が所属するコース以外のプログラムであれば登録することができる。

5　文系４学部副専攻プログラムの履修期間は、本学文系４学部の学生（本学文系４学部のいずれかの学部を卒業した科目等履修生を含む）として在籍する期間に限るものとし、授業科目は学年進行により積み上げ式に構成されているため、２セメスター（４クォーター）以上の履修登録を要件とする。

別表　授業科目、単位数及び最低修得単位数（＊印は基幹教育科目）

1　横断型プログラム

プログラム区分：横断型プログラム
プログラム名　：現代のための歴史

区分	開講学部	科目名	単位数	最低修得単位数
必修	文学部	現代史入門Ⅰ・Ⅱ	各２	４単位
選択必修又は選択	文学部	史学概論	2	12単位ただし、３学部以上の科目を修得すること。
		日本史学講義Ⅰ～XX	各２	
		東洋史学講義Ⅰ～XII	各２	
		朝鮮史学講義Ⅰ～VIII	各２	
		朝鮮歴史文化論講義Ⅰ～VI	各２	
		考古学講義Ⅰ～XVI	各２	
		ヨーロッパ史学講義Ⅰ～VIII	各２	
		イスラム史学講義Ⅰ～XIV	各２	
		哲学史講義Ⅰ～XII	各２	
		インド哲学史講義Ⅰ～Ⅱ	各２	
		中国哲学史講義Ⅰ～VI	各２	
		東洋美術史講義Ⅰ～VIII	各２	
		西洋美術史講義Ⅰ～VIII	各２	
		ジャーナリズム論Ⅰ～Ⅱ	各２	
	教育学部	教育史概論	2	
		教育社会史	2	
		教育社会思想史	2	
		教育文化史	2	
		教育文化思想史	2	
		教育関係史	2	
	法学部	法史学基礎	2	
		政治学史基礎	2	
		政治史	4	
		法思想史	4	
		日本法制史	4	
		東洋法制史	4	
		西洋法制史	4	
		ローマ法Ⅰ	2	
		ローマ法Ⅱ	2	
		政治学史	4	
	経済学部	経済史Ⅰ	2	
		経済史Ⅱ	2	
		日本経済史	2	
		西洋経済史	2	
その他プログラム委員会が定めるもの				
合　　計				16単位

プログラム区分：横断型プログラム
プログラム名　：クロス・アジアの人間と社会

区分	開講学部	科目名	単位数	最低修得単位数
必修	教育学部	国際教育論Ⅰ	2	4単位
		Citizenship Education in Contemporary Asia Ⅰ	2	
選択必修又は選択	文学部	アジア宗教思想講義Ⅰ～Ⅷ	各2	12単位ただし、3学部以上の科目を修得すること。
		日本史学講義Ⅰ～XX	各2	
		東洋史学講義Ⅰ～XII	各2	
		朝鮮史学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
		朝鮮歴史文化論講義Ⅰ～Ⅵ	各2	
		イスラム史学講義Ⅰ～XIV	各2	
		日本倫理思想講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
		中国哲学史講義Ⅰ～Ⅵ	各2	
		インド哲学史講義Ⅰ～Ⅱ	各2	
		東洋美術史講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
		国文学講義Ⅰ～Ⅱ	各2	
		国語学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
		中国文学講義Ⅰ～XII	各2	
		中国語学講義Ⅰ～Ⅳ	各2	
		社会学講義Ⅰ～XII	各2	
		地理学講義Ⅰ～XVI	各2	
		比較宗教学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
		ジャーナリズム論Ⅰ～Ⅱ	各2	
	教育学部	教育基礎学入門*	1	
		現代教育学入門*	1	
		East Asian Images of Japan*	1	
		教育学特論*	2	
		教育心理学特論（教育・学校心理学）*	2	
		比較教育学概論Ⅰ	2	
		Citizenship Education in Contemporary Asia Ⅱ	2	
		Democracy and Education Ⅰ	2	
		Democracy and Education Ⅱ	2	
		Education and Politics Ⅰ	2	
		Education and Politics Ⅱ	2	
		人格・社会心理学講義Ⅰ（感情・人格心理学）	2	
		社会心理学講義Ⅰ（社会・集団・家族心理学）	2	
		環境心理学講義Ⅰ（社会・集団・家族心理学）	2	
	法学部	比較政治学	4	
		日本法制史	4	
		東洋法制史	4	
		比較法	4	
		アジア法	4	
		中国法	4	
		国際政治学Ⅰ	2	
		国際政治学Ⅱ	2	

区分	開講学部	科目名	単位数	最低修得単位数
選択必修 又は 選択	経済学部	グローバル化とアジア経済*	2	12単位 ただし、３学部以上の科目を修得すること。
		国際経済学Ⅰ	2	
		国際経済学Ⅱ	2	
		世界経済	2	
		産業構造	2	
		開発経済	2	
		日本経営論	2	
		比較制度	2	
その他プログラム委員会が定めるもの				
合　　計				16単位

プログラム区分：横断型プログラム
プログラム名　：超情報化社会の文系知

区分	開講学部	科目名	単位数	最低修得単位数
必修	法学部	情報法	4	4単位
選択必修 又は 選択	文学部	哲学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	12単位 ただし、3学部以上の科目を修得すること。
		現代倫理思想講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
		社会学概論	2	
		情報サービス論	2	
		図書館概論	2	
		図書館情報技術論	2	
		ジャーナリズム論Ⅰ～Ⅱ	各2	
		史学概論	2	
		言語学概論	2	
		心理学概論	2	
		社会学概論	2	
		地理学概論	2	
	教育学部	教育情報工学	2	
		教授ストラテジー論	2	
		教育とコミュニケーションデザイン	2	
	法学部	憲法Ⅰ	4	
		憲法Ⅱ	4	
		行政法Ⅰ	4	
		行政法Ⅱ	4	
		法理学	4	
		法社会学	4	
		法情報学	2	
		紛争管理論	4	
		民事訴訟法	4	
		知的財産法	4	
		消費者法	2	
		政治学原論	2	
		政治学史基礎	2	
		政治学Ⅰ	2	
		政治学Ⅱ	2	
		現代政治論	4	
		クリエイティブ産業と法	2	
		西日本新聞社特別講義Ⅰ	2	
		西日本新聞社特別講義Ⅱ	2	
		マスメディア実践論	2	
	経済学部	情報経済	2	
		金融システム	2	
		情報システム	2	
		データ工学	2	
		証券市場の機能と投資行動	2	
その他プログラム委員会が定めるもの				
合　　計				16単位

プログラム区分：**横断型プログラム**
プログラム名　：**グローバル時代のビジネス**

区分	開講学部	科目名	単位数	最低修得単位数
選択必修	経済学部	現代日本経済論	2	2単位
		日本経営論	2	
		EU論基礎ー制度と経済ー*	2	6単位
		経営学Ⅰ	2	
		経営学Ⅱ	2	
		会計学Ⅰ	2	
		会計学Ⅱ	2	
		国際経済学Ⅰ	2	
		国際経済学Ⅱ	2	
		ミクロ経済学Ⅰ	2	
		ミクロ経済学Ⅱ	2	
		情報処理Ⅰ	2	
		計量経済学	2	
選択	文学部	アジア宗教思想講義Ⅰ～Ⅷ	各2	8単位 3学部以上の科目を修得すること。
		現代倫理思想講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
		インド哲学史講義Ⅰ～Ⅱ	各2	
		中国哲学史講義Ⅰ～Ⅵ	各2	
		東洋美術史講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
		西洋美術史講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
		日本史学講義Ⅰ～XX	各2	
		東洋史学講義Ⅰ～XII	各2	
		朝鮮史学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
		ヨーロッパ史学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
		イスラム史学講義Ⅰ～XIV	各2	
		国文学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
		中国文学講義Ⅰ～XII	各2	
		イギリス文学講義Ⅰ～Ⅵ	各2	
		アメリカ文学講義Ⅰ～Ⅵ	各2	
		ドイツ文学講義Ⅰ～XIV	各2	
		フランス文学講義Ⅰ～XVI	各2	
		西洋古典学講義Ⅰ～Ⅳ	各2	
		社会学講義Ⅰ～XII	各2	
		地理学講義Ⅰ～XVI	各2	
		比較宗教学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
		ジャーナリズム論Ⅰ～Ⅱ	各2	
	教育学部	比較教育学概論Ⅱ	2	
		国際教育論Ⅱ	2	
		教育人類学概論	2	
		社会人類学	2	
		アジアの教育	2	
		異文化間教育論	2	
		異文化理解の教育	2	
	法学部	民法Ⅰ	4	
		民法Ⅱ	4	

別表

区分	開講学部	科目名	単位数	最低修得単位数
選択	法学部	民法Ⅲ	4	８単位 ３学部以上の科目を修得すること。
		国際公法	4	
		労働法	4	
		社会保障法	4	
		経済法	4	
		消費者法	2	
		商法Ⅰ	4	
		商法Ⅱ	2	
		商法Ⅲ	2	
		英米法	4	
		ドイツ法	2	
		フランス法	2	
		アジア法	2	
		中国法	4	
		国際経済法	4	
		国際私法	4	
		国際取引法	4	
		知的財産法	4	
		ワークルールとキャリアデザイン	2	
	経済学部	経営政策	2	
		経営管理	2	
		経営労務	2	
		国際ビジネス	2	
		国際マーケティング	2	
		原価計算	2	
		管理会計	2	
		企業会計	2	
		国際会計	2	
		財務会計	2	
		世界経済	2	
		貿易投資分析	2	
		国際金融	2	
		国際経済政策	2	
		開発経済	2	
		産業技術	2	
		産業政策	2	
		産業配置	2	
		産業構造	2	
		企業経済学	2	
		企業金融	2	
		Topics in Global Economy	1	
		グローバル経済特別講義	1	
		経済・経営学演習	各４	
		経済工学演習	各４	
その他プログラム委員会が定めるもの				
合　　計				16単位

2　専門領域型プログラム

（1）文学部

プログラム区分：専門領域型プログラム プログラム名　：哲学プログラム			
区分	科目名	単位数	最低修得単位数
基盤科目	人文学基礎Ⅰ	2	4単位必修
	哲学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
展開科目	人文学Ⅰ～Ⅳ	各2	12単位
	近現代哲学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	教父中世哲学講義Ⅰ～Ⅳ	各2	
	古代哲学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	英米哲学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	倫理学基礎論講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	現代倫理思想講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	日本倫理思想講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	アジア宗教思想講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	インド哲学史講義Ⅰ～Ⅱ	各2	
	仏教史講義Ⅰ～Ⅱ	各2	
	中国哲学史講義Ⅰ～Ⅵ	各2	
	現代芸術論講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	西洋美術史講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	美学芸術学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	東洋美術史講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
その他プログラム委員会が定めるもの			
合　　計			16単位

プログラム区分：専門領域型プログラム プログラム名　：歴史学プログラム			
区分	科目名	単位数	最低修得単位数
基盤科目	人文学基礎Ⅰ	2	4単位必修
	史学概論	2	
展開科目	人文学Ⅰ～Ⅳ	各2	12単位
	日本史学講義Ⅰ～XX	各2	
	東洋史学講義Ⅰ～XII	各2	
	朝鮮史学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	朝鮮歴史文化論講義Ⅰ～Ⅵ	各2	
	考古学講義Ⅰ～XVI	各2	
	ヨーロッパ史学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	イスラム史学講義Ⅰ～XIV	各2	
その他プログラム委員会が定めるもの			
合　　計			16単位

プログラム区分：専門領域型プログラム
プログラム名　：文学プログラム

区分	科目名	単位数	最低修得単位数
基盤科目	人文学基礎Ⅱ	2	2単位必修
展開科目	人文学Ⅰ～Ⅳ	各2	14単位
	国語学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	国文学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	中国語学講義Ⅰ～Ⅳ	各2	
	中国語学演習Ⅰ～Ⅳ	各2	
	中国語会話Ⅰ～Ⅱ	各2	
	中国語作文Ⅰ～Ⅱ	各2	
	中国文学講義Ⅰ～Ⅻ	各2	
	中国文学作品演習Ⅰ～Ⅵ	各2	
	中国文学批評演習Ⅰ～Ⅵ	各2	
	中国文化論	2	
	英語学講義Ⅰ～Ⅻ	各2	
	イギリス文学講義Ⅰ～Ⅵ	各2	
	アメリカ文学講義Ⅰ～Ⅵ	各2	
	英米研究	2	
	ドイツ語学講義Ⅰ～Ⅳ	各2	
	ドイツ語学演習Ⅰ～Ⅻ	各2	
	ドイツ語会話Ⅰ～Ⅱ	各2	
	ドイツ語作文Ⅰ～Ⅱ	各2	
	ドイツ文学講義Ⅰ～ⅩⅣ	各2	
	ドイツ文学演習Ⅰ～ⅩⅣ	各2	
	ドイツ文化論	2	
	フランス語学講義Ⅰ～Ⅲ	各2	
	フランス語学演習Ⅰ～Ⅻ	各2	
	フランス語学（仏会話）Ⅰ～Ⅱ	各2	
	フランス語学（仏作文）Ⅰ～Ⅱ	各2	
	フランス文学講義Ⅰ～ⅩⅥ	各2	
	フランス文化論	2	
その他プログラム委員会が定めるもの			
合　　計			16単位

プログラム区分：**専門領域型プログラム**
プログラム名　：**人間科学プログラム**

区分	科目名	単位数	最低修得単位数
基盤科目	人文学基礎Ⅱ	2	2単位必修
	地理学概論	各2	2単位選択必修
	言語学概論	各2	
	心理学概論	各2	
	比較宗教学概論	各2	
	社会学概論	各2	
展開科目	人文学Ⅰ～Ⅳ	各2	12単位
	言語学・応用言語学講義Ⅰ～XX	各2	
	社会学講義Ⅰ～XII	各2	
	地域福祉社会学講義Ⅰ～XII	各2	
	心理学講義Ⅰ～Ⅳ（知覚・認知心理学）	各2	
	心理学講義Ⅴ～Ⅵ（神経・生理心理学）	各2	
	心理学講義Ⅶ～Ⅷ（司法・犯罪心理学）	各2	
	心理学統計法	2	
	地理学講義Ⅰ～XVI	各2	
	宗教史講義Ⅰ～Ⅳ	各2	
	比較宗教学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	文化人類学講義Ⅰ～Ⅷ	各2	
	社会人類学講義Ⅰ～Ⅳ	各2	
	文化人類学演習Ⅰ～Ⅷ	各2	
その他プログラム委員会が定めるもの			
合　　計			16単位

（2）教育学部

プログラム区分：専門領域型プログラム プログラム名　：教育学・心理学から見た「個と多様性」			
区分	科目名	単位数	最低修得単位数
基盤科目	心理学入門*	2	4単位
	教育基礎学入門*	1	
	現代教育学入門*	1	
	教育統計学	2	
	教育学特論*	2	
	教育心理学特論（教育・学校心理学）*	2	
展開科目	文化人類学	2	12単位
	比較文化論	2	
	教育人類学概論	2	
	社会人類学	2	
	教育史概論	2	
	教育哲学概論Ⅰ	2	
	教育哲学概論Ⅱ	2	
	教育社会学概論Ⅰ	2	
	教育社会史	2	
	教育法学	2	
	教育法社会学	2	
	教育行政学	2	
	生涯学習概論	2	
	社会教育行政	2	
	まちづくり基礎論	2	
	教育とコミュニケーションデザイン	2	
	教育関係史	2	
	臨床心理学講義Ⅰ（臨床心理学概論）	2	
	パーソナリティ心理学講義Ⅱ（健康・医療心理学）	2	
	パーソナリティ心理学講義Ⅳ（心理的アセスメント）	2	
	発達臨床学講義Ⅰ（福祉心理学）	2	
	アクセシビリティ心理学講義Ⅰ（障害者・障害児心理学）	2	
	障害心理学講義Ⅰ（障害者・障害児心理学）	2	
	生涯発達学講義Ⅰ（教育・学校心理学）	2	
その他プログラム委員会が定めるもの			
合　　計			16単位

プログラム区分：**専門領域型プログラム**
プログラム名　：**教育学・心理学から見た「文化とシステム」**

区分	科目名	単位数	最低修得単位数
基盤科目	心理学入門*	2	4単位
	教育基礎学入門*	1	
	現代教育学入門*	1	
	教育統計学	2	
	教育学特論*	2	
	教育心理学特論（教育・学校心理学）*	2	
展開科目	比較教育学概論Ⅰ	2	12単位
	国際教育論Ⅰ	2	
	比較教育学概論Ⅱ	2	
	国際教育論Ⅱ	2	
	教育制度学	2	
	社会教育史	2	
	社会教育方法論	2	
	授業研究方法論	2	
	学習指導・教育方法論	2	
	人間開発論	2	
	学習輔成論	2	
	教育情報工学	2	
	教育文化史	2	
	教育関係史	2	
	地域教育社会学	2	
	教育組織社会学	2	
	教育社会学概論Ⅱ	2	
	教育計画論	2	
	教育評価論	2	
	人格・社会心理学講義Ⅰ（感情・人格心理学）	2	
	比較発達心理学講義Ⅰ（発達心理学）	2	
	発達心理学講義Ⅰ（発達心理学）	2	
	社会心理学講義Ⅰ（社会・集団・家族心理学）	2	
	集団心理学講義Ⅰ（社会・集団・家族心理学）	2	
	環境心理学講義Ⅰ（社会・集団・家族心理学）	2	
その他プログラム委員会が定めるもの			
合　　計			16単位

（3）法学部

プログラム区分：**専門領域型プログラム**
プログラム名　：**法の文化と歴史**

区分	科目名	単位数	最低修得単位数
基盤科目	憲法Ⅰ	4	6単位
	法文化学基礎	2	
	法史学基礎	2	
	政治学Ⅰ	2	
	政治学Ⅱ	2	
展開科目	法理学	4	10単位
	法思想史	4	
	日本法制史	4	
	東洋法制史	4	
	西洋法制史	4	
	ローマ法Ⅰ	2	
	ローマ法Ⅱ	2	
	比較法	4	
	英米法	4	
	ドイツ法	2	
	フランス法	2	
	アジア法	2	
	中国法	4	
	法社会学	4	
その他プログラム委員会が定めるもの			
合　　計			16単位

プログラム区分：**専門領域型プログラム**
プログラム名　：**行政と法**

区分	科目名	単位数	最低修得単位数
基盤科目	憲法Ⅰ	4	8単位
	憲法Ⅱ	4	
	行政法Ⅰ	4	
	国際公法	4	
	労働法	4	
展開科目	社会保障法	4	8単位
	行政法Ⅱ	4	
	行政学	4	
	租税法	2	
その他プログラム委員会が定めるもの			
合　　計			16単位

プログラム区分：**専門領域型プログラム**
プログラム名　：**企業と法**

区分	科目名	単位数	最低修得単位数
基盤科目	民法Ⅰ	4	8単位
	民法Ⅱ	4	
	労働法	4	
	民法Ⅲ	4	
	民事訴訟法	4	
	商法Ⅰ	4	
展開科目	経済法	4	8単位
	商法Ⅱ	2	
	商法Ⅲ	2	
	商法Ⅳ	2	
	消費者法	2	
	知的財産法	4	
	民事訴訟法特別講義	2	
	ワークルールとキャリアデザイン	2	
	土地境界と登記	2	
その他プログラム委員会が定めるもの			
合　　計			16単位

プログラム区分：**専門領域型プログラム**
プログラム名　：**犯罪と法**

区分	科目名	単位数	最低修得単位数
基盤科目	刑法Ⅰ	4	12単位
	刑法Ⅱ	4	
	憲法Ⅱ	4	
	刑事訴訟法	4	
展開科目	少年法	4	4単位
	刑事政策	4	
	法社会学	4	
	刑事訴訟法特別講義	2	
その他プログラム委員会が定めるもの			
合　　計			16単位

プログラム区分：専門領域型プログラム
プログラム名　：国際ビジネスと法

区分	科目名	単位数	最低修得単位数
基盤科目	民法Ⅰ	4	8単位
	民法Ⅱ	4	
	国際公法	4	
	民法Ⅲ	4	
展開科目	国際経済法	4	8単位
	国際私法	4	
	国際取引法	4	
	知的財産法	4	
	国際政治学Ⅰ	2	
	国際政治学Ⅱ	2	
その他プログラム委員会が定めるもの			
合　　計			16単位

プログラム区分：専門領域型プログラム
プログラム名　：政治

区分	科目名	単位数	最低修得単位数
基盤科目	政治学原論	2	8単位
	政治学史基礎	2	
	政治学Ⅰ	2	
	政治学Ⅱ	2	
	政治史	4	
	比較政治学	4	
展開科目	行政学	4	8単位
	政治学史	4	
	現代政治論	4	
	国際政治学Ⅰ	2	
	国際政治学Ⅱ	2	
	西日本新聞社特別講義Ⅰ	2	
	西日本新聞社特別講義Ⅱ	2	
その他プログラム委員会が定めるもの			
合　　計			16単位

（4）経済学部

プログラム区分：**専門領域型プログラム**
プログラム名　：**経済学・経営学のツールで解く現代社会の諸課題**

区分	科目名	単位数	最低修得単位数
基盤科目	経済学入門*	2	8単位
	ミクロ経済学Ⅰ	2	
	ミクロ経済学Ⅱ	2	
	マクロ経済学Ⅰ	2	
	マクロ経済学Ⅱ	2	
	政治経済学Ⅰ	2	
	政治経済学Ⅱ	2	
	情報処理Ⅰ	2	
	情報処理Ⅱ	2	
	計量経済学	2	
	基礎計量経済学Ⅰ	1	
	基礎計量経済学Ⅱ	1	
	数理統計学Ⅰ	1	
	数理統計学Ⅱ	1	
	経営学Ⅰ	2	
	経営学Ⅱ	2	
	会計学Ⅰ	2	
	会計学Ⅱ	2	
	国際経済学Ⅰ	2	
	国際経済学Ⅱ	2	
	経済史Ⅰ	2	
	経済史Ⅱ	2	
展開科目	経済統計	2	8単位
	社会統計	2	
	地域政策	2	
	金融システム	2	
	国際金融	2	
	証券市場	2	
	世界経済	2	
	貿易投資分析	2	
	国際経済政策	2	
	開発経済	2	
	農業政策	2	
	情報経済	2	
	現代日本経済論	2	
	産業技術	2	
	産業政策	2	
	産業配置	2	
	産業構造	2	
	日本経済史	2	
	西洋経済史	2	
	経営政策	2	

別表

区分	科目名	単位数	最低修得単位数
展開科目	経営管理	2	8単位
	経営労務	2	
	日本経営論	2	
	原価計算	2	
	管理会計	2	
	企業会計	2	
	国際会計	2	
	財務会計	2	
	国際マーケティング	2	
	国際ビジネス	2	
	技術経営	2	
	応用計量経済学Ⅰ	2	
	応用計量経済学Ⅱ	2	
	応用計量経済学Ⅲ	2	
	データ工学	2	
	応用ミクロ経済学	2	
	応用マクロ経済学	2	
	公共経済学	2	
	環境経済学	2	
	企業経済学	2	
	企業金融	2	
	財政	2	
	金融	2	
	経済政策	2	
	社会保障	2	
	労働経済	2	
	比較制度	2	
	経済学史	2	
	経済数学	2	
	数理計画	2	
	情報システム	2	
	数理ファイナンス	2	
	上級経済理論	2	
	上級計量経済学	2	
	応用ファイナンス	2	
	経済・経営学演習	各4	
	経済工学演習	各4	
その他プログラム委員会が定めるもの			
合　　計			16単位

九州大学